

平成30年度

第1回柏市社会教育委員会議

会議資料

平成30年7月3日

## 柏市社会教育委員 委員名簿

所属等	職務名	氏 名※敬称略	役職等
開智国際大学	名誉教授	池沢 政子	議長
柏市地域支援課	市民協働支援員	村田 修治	副議長
柏市中央公民館	生涯学習専門アドバイザー(公民館分野)		
柏市立富勢東小学校	校 長	伊堂寺 和美	
柏市立高柳中学校	校 長	麻生 弘一	新任
柏市子ども会育成連絡協議会	副会長	大谷 佳子	
柏市青少年健全育成推進連絡協議会	監 査	坂巻 勝	
柏市PTA連絡協議会	会 長	吉田 智紀	
柏市ふるさと協議会連合会	会 長	根本 利治	
さわやかちば県民プラザ	所 長	藤田 武	新任
柏市公民館運営審議会	委 員	山本 綾子	
柏市民生委員児童委員協議会	副会長	小林 新子	
「みんなの子育て広場」	支援コーディネーター	岩渕 弘美	
東京大学大学院	教 授	牧野 篤	
社会保険労務士 キャリアコンサルタント		清水 雅文	
市民公募		大島 瑞枝	

任期：平成29年6月1日～平成31年5月31日

麻生、藤田委員の任期：平成30年6月1日～平成31年5月31日

## 柏市教育委員会 出席職員名簿

所 属	職 名	氏 名	
生涯学習部	部 長	小貫 省三	
	次 長	中山 浩二	
生涯学習課	課 長	高村 光	
	副参事	橋本賢一郎	
	副主幹	三田上稔子	
	主 査	鈴木 佑介	
	主 任	高丸 富雄	
	生涯学習専門 アドバイザー (生涯学習分野)		崩拔 博孝
			石井 礼子
		馬場 秀樹	

## 次 第

---

- 1 開会
- 2 部長あいさつ
- 3 池沢議長あいさつ
- 4 新任委員あいさつ
- 5 事務局職員紹介
- 6 報告事項  
平成30年度生涯学習部各課・館主要事務事業概要について
- 7 協議事項  
諮問に対する答申案骨子の検討（グループワークによる協議）
- 8 閉会

## 目 次

---

1	報告事項	2
2	前年度会議の振り返り	3
3	答申に向けた柏市教育委員会の考え方	12
4	答申の骨子（案）	13
5	協議事項	14
6	平成30年度社会教育委員会議について	15

## 1 報告事項

---

### (1) 平成30年度生涯学習部各課・館主要事務事業概要について

別添配布資料①のとおり

#### ※主な変更点

- ①市の組織改編により生涯学習部にあった少年補導センターが学校教育部に移行しました。
- ②生涯学習課で「図書館のあり方」について検討することになりました。

## 2-1 前年度会議の振り返り

### 前年度会議（全3回）

第1回 平成29年7月18日

諮問事項

「地域と学校の連携について」

#### 意見交換会

- ・学校はどの団体に相談するのか分からないのではないか。
- ・一本化して連携できる組織があればスムーズになる。
- ・学校側と地域側で価値観の違いや地域差もある。
- ・地域と学校のつなぎ手となる人材がポイントになる。

第2回 平成29年11月21日

講義：地域学校協働活動に関する国の動向

講師：東京大学大学院教育学研究科 牧野 篤 教授

テーマ：子どもが主役の社会をつくるー地域学校協働活動の考え方ー

グループワーク：講義を受けての意見交換

第3回 平成30年2月20日

発表：学校現場から見た学校支援体制とボランティア活動

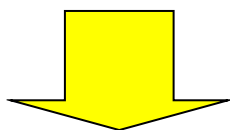
発表者：柏市教育委員会学校教育指導課 小高 俊彦 統括リーダー

グループワーク：学校をよりよくしていくために地域は何ができるのか

発表：地域と学校の連携（事例）

発表者：柏市社会教育委員会議副議長 村田 修治 委員

グループワーク：地域の人が学校に入っていくには、また、子どもたちが地域活動に参加するきっかけを作っていくには



平成30年度の協議テーマ⇒諮問に対する答申

## 2-2 前年度会議の振り返り（諮問書）

柏教生第128号  
平成29年7月18日

柏市社会教育委員会議  
議長 様

柏市教育委員会  
教育長 河 鳶 貞

地域と学校の連携について（諮問）

このことについて、下記のとおり貴会議に諮問します。

記

- 1 諮問事項  
地域と学校の連携について
- 2 添付書類  
別紙のとおり



## 地域と学校の連携について

### 1 背景

わが国は、急激な少子高齢化が進み、将来的には人口減少が押し寄せる時代が到来するといわれている。

そのような中で、地域社会では、地域の異世代の人との関わりの中でさまざまな体験の機会を子どもたちに提供する地域の持つ教育力が近年低下してきているといわれている。また、家庭では核家族の増加等家族形態が変化するとともに、地域社会とのつながりも弱まっていることが指摘されている。

一方学校では、地域社会や家庭の教育力の低下に伴い、様々な課題や責任が課され、学校の抱える課題は著しく複雑化・多様化しているともいわれている。

### 2 国の動き

国は、中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（平成27年12月答申）」を受け、「『次世代の学校・地域』創生プラン」を策定し、学校・地域それぞれの視点に立ち、「次世代の学校・地域」両者一体となった体系的な取組みを進めているところである。

上記を踏まえ、本市においても、地域と学校との新しい関係の構築が求められているところである。

## 2-3 前年度会議の振り返り（第2回会議の概要）

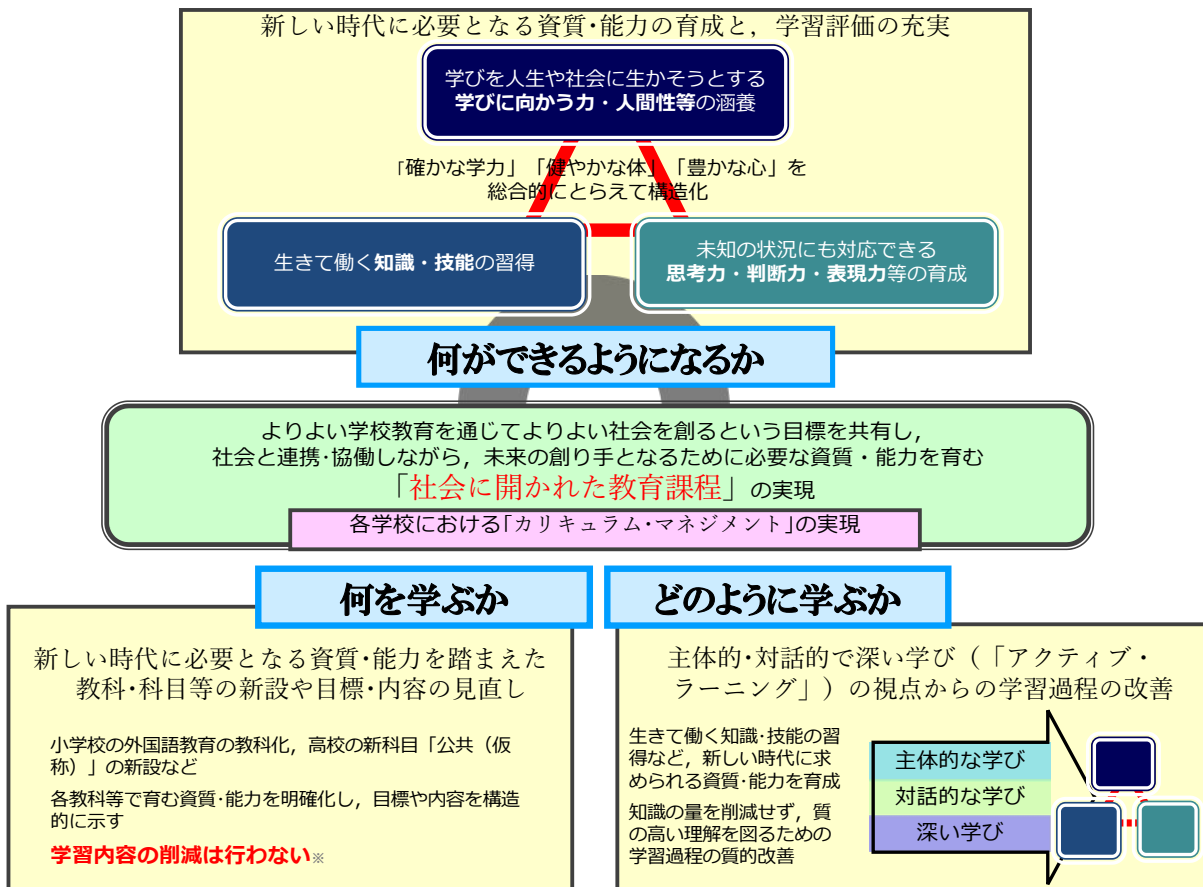
### 地域学校協働活動に関する国の動向

#### (1) 社会背景

超高齢化・少子化・人口減少社会と言われているが、約6割は高齢者以外であるため、高齢社会に生きる子どもの問題を検討する必要がある。

#### (2) 新しい学習観

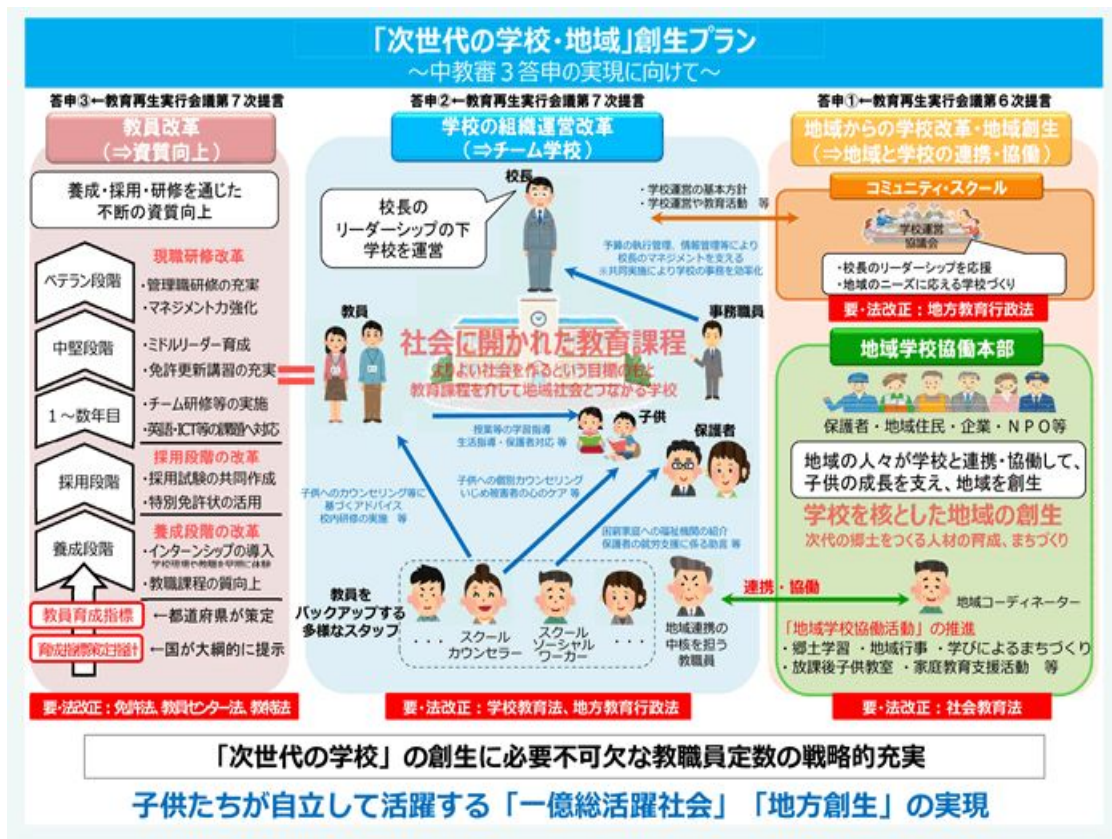
平成28年12月の中央教育審議会において、教育課程は学校だけで完結するものではなく、地域コミュニティとの連携や協働によって、様々な社会体験をさせる必要があるとされ、「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、三つの柱が示された。



### (3) 学校を核とした地域のあり方

- ・ 3つの答申

(左から教員資質向上答申, チーム学校答申, 地域学校答申)



子ども・若者を主役として、地域住民がコミュニティをつくり、つながり、楽しむ。すべての人がフルメンバーとして活躍できる社会へ、そのための基礎をつくるのが、地域学校協働本部。

### グループワークで出た意見

- ・ 地域と学校を分けて考えるのではなく、地域のなかに学校があるとの認識で、地域と学校が一緒になって考えることが重要である。
- ・ 今学校にはあらゆる問題が持ち込まれ、学校が「福祉の場」のようになっている。教育以外のことを抱え込みすぎている。学校が教育機関としての役割を果たすためにも、学校に持ち込まれる問題を地域の問題として、地域がどう解決していくかが、課題である。

## 2-4 前年度会議の振り返り（第3回会議の概要①）

### 学校現場から見た学校支援体制とボランティア活動

#### (1) 学校の果たす役割の拡大

- ・ いじめ・不登校などの生徒指導上の課題や特別支援教育の充実への対応など、学校の抱える課題が複雑化・多様化。
- ・ 貧困問題への対応など、学校に求められる役割の拡大。
- ・ 課題の複雑化・多様化に伴い、心理や福祉等の専門性が求められている。

#### 学校の先生の日(例)

- ・ 朝7時に出勤→授業→休み時間は子どもと遊ぶ→お昼は給食指導→放課後は部活動や会議→自分の仕事は18時以降→帰るのは20時過ぎ→土日も地域行事、中学校は部活動

授業準備に充てる時間がとれない。

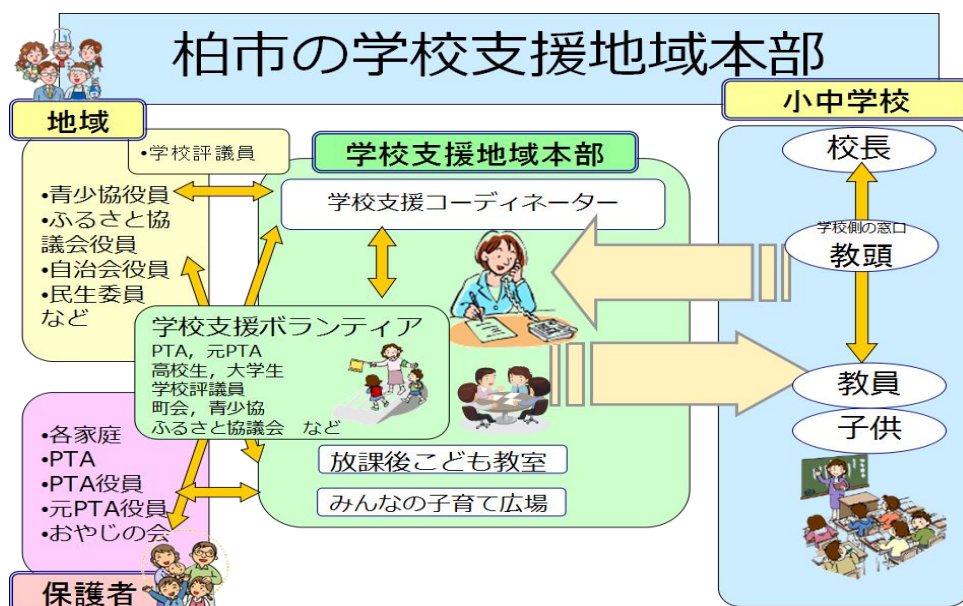
#### (2) これからの学校と地域が目指す連携・協働

～社会に開かれた教育課程～

- ・ **地域とともにある学校への転換**  
開かれた学校から一步踏み出し、地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」に転換。
- ・ **子供も大人も学びあい育ち合う教育体制の構築**  
地域の様々な機関や団体等がネットワーク化を図りながら、学校、家庭及び地域が相互に協力し、地域全体で学びを展開していく「子供も大人も学び合い育ち合う教育体制」を一体的・総合的に構築。
- ・ **学校を核とした地域づくりの推進**  
学校を核とした協働の取組を通じて、地域の将来を担う人材を育成し、自立した地域社会の基盤を図る「学校を核とした地域づくり」を推進。

### (3) 柏市の学校支援体制

学校評議員， P T A， 学校支援コーディネーター・ボランティア



### 学校から見た地域と学校の協働のよさ

- 子どもの学びを豊かにすることができる
  - ✓ 本物に触れる体験
  - ✓ 学び甲斐のある学習
  - ✓ 人との関わり
- 子どもと向き合う時間の確保
  - ✓ 学校教育の担う役割
- 教職員の育成
  - ✓ めざす子ども像の共有
  - ✓ 教職員の成長

### グループワークで出た意見

- 学校と地域は最初のパイプ作りが難しい。
- 学校の先生は2～3年で異動してしまうため，コーディネーターは重要であり，その養成が大切である。
- 教育ミニ集会などを利用し，意見をすり合わせていける機会を作る。
- 普段のちょっとしたあいさつをきっかけとして，活発で活気のある雰囲気づくりができると思う。「小さな活動，普段の心がけが大切である」



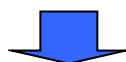
## 2-5 前年度会議の振り返り（第3回会議の概要②）

### 地域と学校の連携（事例）

#### (1) 子ども参加型の地域づくり事例

##### 新富げんきなひろば

新富地域の地主さんから、子どもの遊び場に利用してほしいと市に土地が寄付され、その取扱いについて、ふるさと協議会、近隣3町会、3小学校の代表者による運営委員会を発足した。



運営委員より、「ひろばを使う子どもたちの意見が協議に反映されないのはおかしい」という意見がでたため、子ども小委員会を発足。ひろば活用のワークショップと公募による子どもたちが、子どもの代表者として、運営委員会での活用を提案。

##### ワークショップ

近隣の小学校（3校）で模型を使い広場の計画案の説明と、広場の活用方法を考えるグループワークを4・5年生を対象に実施し、アンケート約千人分を回収。



##### 運営委員会

公募者（25名）によるアンケートの分析とテーマ分けを行い、テーマ別による活用の提案と対応策の検討を行った。



結果：運営委員会で子どもたちの主張が全て通り、ひろばの活用方法を子どもたちに提案する「遊び場クリエイター」となった。

## (2) 子どもの力を借りた地域づくりの事例

- ・多世代交流型コミュニティ実行委員会

## (3) 子どもが主体的に活動する事例

- ・子どもチャレンジプロジェクト

## (4) 若者の自己実現と社会参画する活動事例

- ・ヤングパワームーブメント・ヤングクリエイター養成講座

## (5) 地域と学校の連携事例

- ・福祉教育からの地域・小学校・中学校・高校の連携

### 地域と学校をつなげるためには中間支援者が双方に必要

- ・中間支援団体  
ふるさと協議会・地区社協・青少協等
- ・中間支援者  
学校支援コーディネーター・地域コーディネーター
- ・中間支援の体制づくり  
学校と地域に事務局機能を（用務員を事務局化）

### グループワークで出た意見

- ・生涯学習で一生にわたって生きる力をつけていかなければいけない。学校と地域社会で、小さな頃にそのような力をつけさせていくことが大切である。地域で子どもたちを主役にしていく、そこに学校と地域社会とが連携していく。
- ・地域と学校との間で情報が伝わるようにすることが大事。
- ・地域の防災訓練に子どもを参加させることにより、意欲を高める。

### 3 答申に向けた柏市教育委員会の考え方

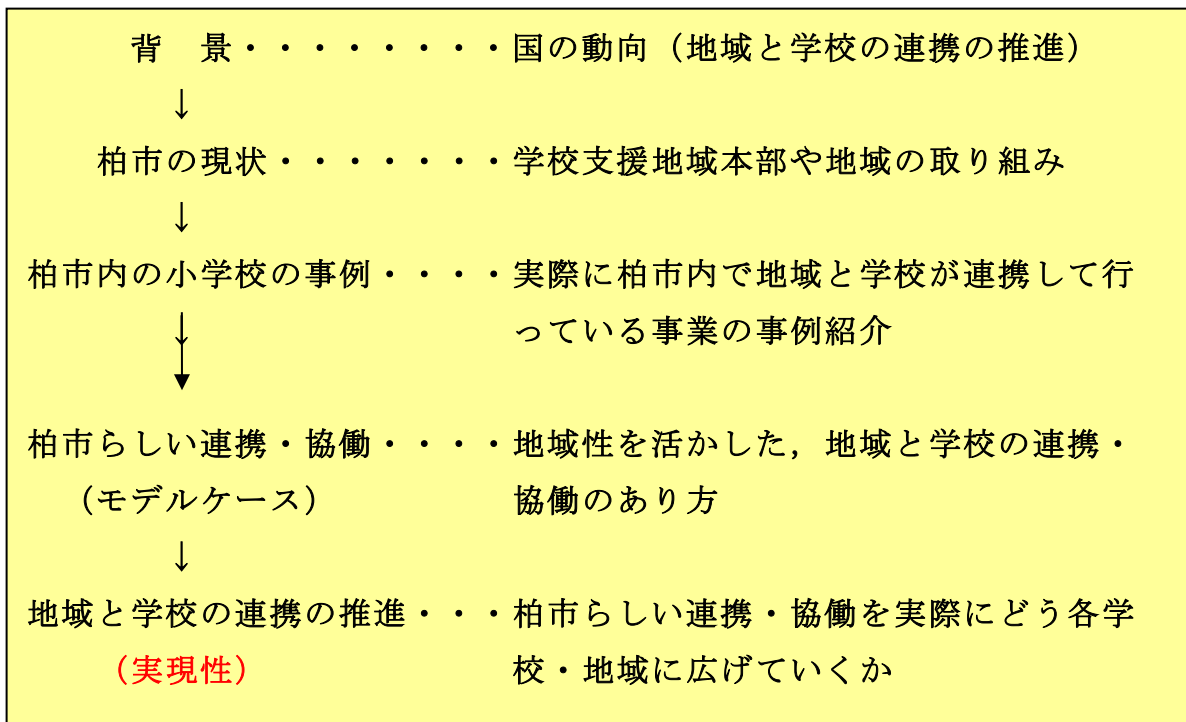
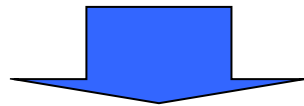
#### (1) 答申策定の進め方

平成31年2月に予定している第3回社会教育委員会議において、諮問に対する答申をいただくことになっております。

昨年度の会議で国、学校、地域の現状の取り組みについて講義及びグループワークを行いました。その内容を踏まえ、「柏市らしい地域と学校の連携について」より議論を深めていただき、今後の方向性を示していただきたいと考えております。

#### (2) 答申の骨子（案）の基本的な考え方

今まで協議してきたことを各項目に設定し、柏市らしさを活かした地域と学校の連携の方針を示していきたいと考えております。地域側、学校側の意見がある中で、お互いの考え方に寄り添うよう、Win-Winの関係を実際にどう築いていけるかということを基本理念としております。





## 4 答申の骨子（案）

### 諮問に対する答申案骨子（案）

#### 諮問事項「地域と学校の連携について」

##### 1. 地域と学校の連携にむけた動向

国の動向

子どもが主役の社会をつくる（H29 第 2 回 牧野教授 講義）

##### 2. 柏市の地域と学校の連携の現状

学校側

（H29 第 3 回 小高統括リーダー 発表）

地域側

（H29 第 3 回 村田副議長 発表）

##### 3. 柏市内の連携活動事例

高柳小学校 TCN（高柳地域ネットワーク隊）多世代交流

酒井根東小学校

柏第六小学校 豊四季台くるるセミナー

第 1 回会議  
協議事項

##### 4. 柏市らしい「地域と学校の連携・協働活動」のあり方

（案）  
地域と学校の新しい関係の構築へ  
今ある支援を活用した活動へ  
地域・学校の実情に合った活動  
支援する人材の育成・確保

第 2 回会議  
協議事項

##### 5. 地域と学校の連携にむけた推進

（案）  
地域とともにある学校へ  
学校を核とした地域づくり  
学校支援体制から地域学校協働本部へ

## 5 協議事項

### (1) 地域と学校の連携（柏市内の小学校の取り組み）

生涯学習課で、柏市の小学校で地域と学校の連携を推進している学校の取組状況について、聞き取りを行いました。

別添資料「地域と学校の連携活動事例」のとおり

### (2) 答申の骨子(案)について

前回までの社会教育委員会議の議論を踏まえ、答申の骨子(案)をまとめました。

つきましては、皆様からご意見やご提案をいただけますよう、お願い申し上げます。

### (3) グループワーク

柏らしい「地域と学校の連携・協働活動」のあり方として今回の会議では、以下の事項について、協議していただきます。

#### 協議事項①

「地域が学校にして貰いたいこと、また、地域が何をできるか」

#### 協議事項②

「学校側・地域側で誰が誰にどのように話しをしていくと、スムーズに協議ができるか」

## 6 平成30年度社会教育委員会議について

### (1) 平成30年度の開催予定

日時等	議題等（予定）
平成30年度 第1回 7月3日（火）	<ul style="list-style-type: none"><li>・平成30年度生涯学習部各課・館主要事務事業概要について</li><li>・全年度会議の振り返り</li><li>・答申案骨子の検討</li><li>・柏市らしい「地域と学校の連携・協働活動」のあり方について</li></ul>
第2回 11月	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域と学校の連携にむけた推進について</li><li>・答申案の検討</li></ul>
第3回 2月	<ul style="list-style-type: none"><li>・答申</li><li>・平成31年度社会教育団体への補助金交付について</li></ul>